

説教ワポイント

みなしごにはしておかない

ヨハネ一四・一八〜一九
使徒言行録二・一〜二

ペンテコステを子どもたちにも分かりやすく、
「教会のお誕生日だよ」と説明することがあります。
その通り、約二〇〇〇年前、歴史上はじめて
教会が歩み出したのはペンテコステ（過ぎ越し祭
から五十日のお祭り）の日、神さまからの聖霊を
受けたときでした。聖霊は目に見えないので難し
く感じる人が多いけれど、その本質を今日の聖
書は一言で表しています。

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしてお
かない」（ヨハネ一四・一八）

イエスさまが遺言のように弟子たちに語った
言葉です。十字架で死に、復活するも天に帰って

行かれる。その時地上に遺される弟子たちの寂
しき、心細さを見抜いておられたのでしよう。
だから、「みなしごにはしておかない」と。その
約束の実現が聖霊でした。

聖霊は、①世の苦しみや誘惑に戸惑い、迷い、
目標を見失いがちな私たちの目を開かせ、本当
の目標（私たちを心から愛してくださる方）に
気づかせてくれます。さらに、②その目標に向
かって歩みはじめた私たちを様々な試練からし
っかり守ってくれます。その聖霊のことをイエ
スは「弁護者」（パラクレートス）と表現しまし
た。パラとは「傍ら」。クレートスは「呼びかけ」。
馬拉ソンで苦しそうにしているランナーの横で
〇〇頑張れ！と名前を呼んで励まし助けてくれ
る人のように、聖霊は私たちが御国のゴールに
入るまで共に歩み、支えていてくれるのです。

（二〇一六年五月一五日。ペンテコステ礼拝より、津田記）